

豊かな自然に暮らす野生の動植物の島。
 人間はそこにちょっとお邪魔させていただきだけ。
 それが、この島のルール。
 それが、本当のエコ。

澄み渡る海に囲まれたエコの島へ

Rottne st I s l a n d

ロットネスト島



カ、オスブレイ(海鷲)などを見ることができるとのことだ。そのほか、アンダーウオーター・クルーズや、空の上から島を望む遊覧飛行ツアーなどもあり、あらゆる楽しみ方が用意されている。

なお、桟橋付近のトンブソンエリアには、ビジターセンターをはじめ、レストラン、宿泊施設などがそろっている。日帰りでも十分に楽しめる島だが、余裕があれば、1泊、2泊と滞在してみよう。

この島では、自然保護のため一般車両の乗り入れを規制している。そのため、ツーリストの足となるのは自転車だ。周囲約40kmの島はサイクリングに最適。好みのビーチで泳いだり、木陰で昼寝するのも自由自在。自転車が苦手、時間が無いという人は、島内の見どころを約2時間で回るバスツアーがお勧めだ。桟橋の約2トンブソンエリアから時計回りに最南端のパーカーポイントやワジュマツパドック、最西端のウエストエンドなどを巡るもの。毎日3〜4便運行しているので、いつに島に着いても参加することができる。

この島に来たら、マリンスポーツをしない手はないだろう。穏やかなビーチでの海水浴やシュノーケル、ダイビング、サーフィン、カヤック、フィッシングなど、美しい海を満喫できるメニューがそろっている。人気のビーチは北側のザ・ベイソンや南側のパーカーポイント。サーフィンなら、サーモンベイやウエストエンドにいい波がやってくる。

近年は、野生の海洋生物に接近できるエコボートツアーも人気。高性能のエコエンジンを搭載した42人乗りのボートで巡れば、アシカやイル

カ、オスブレイ(海鷲)などを見ることができるとのことだ。そのほか、アンダーウオーター・クルーズや、空の上から島を望む遊覧飛行ツアーなどもあり、あらゆる楽しみ方が用意されている。

なお、桟橋付近のトンブソンエリアには、ビジターセンターをはじめ、レストラン、宿泊施設などがそろっている。日帰りでも十分に楽しめる島だが、余裕があれば、1泊、2泊と滞在してみよう。

この島では、自然保護のため一般車両の乗り入れを規制している。そのため、ツーリストの足となるのは自転車だ。周囲約40kmの島はサイクリングに最適。好みのビーチで泳いだり、木陰で昼寝するのも自由自在。自転車が苦手、時間が無いという人は、島内の見どころを約2時間で回るバスツアーがお勧めだ。桟橋の約2トンブソンエリアから時計回りに最南端のパーカーポイントやワジュマツパドック、最西端のウエストエンドなどを巡るもの。毎日3〜4便運行しているので、いつに島に着いても参加することができる。

この島に来たら、マリンスポーツをしない手はないだろう。穏やかなビーチでの海水浴やシュノーケル、ダイビング、サーフィン、カヤック、フィッシングなど、美しい海を満喫できるメニューがそろっている。人気のビーチは北側のザ・ベイソンや南側のパーカーポイント。サーフィンなら、サーモンベイやウエストエンドにいい波がやってくる。

近年は、野生の海洋生物に接近できるエコボートツアーも人気。高性能のエコエンジンを搭載した42人乗りのボートで巡れば、アシカやイル



青い空と海と風に身をまかせ、
 さあ、自転車に乗ろう！

パースの沖合い19kmにぼつかりと浮かぶロットネスト島。パースからフェリーで約1時間半、フリーマントルから高速船に乗ればわずか30分でアクセスできる。

63のビーチと20のベイ(湾)がある島は、全体がA級の自然保護指定国立公園になっていて、独特の生態系が守られている。珊瑚礁に囲まれたビーチには100種のトロピカルフィッシュが泳ぎ、沖にはアシカやイルカなどの姿を見ることが出来る。島内にはプロッコリーの形をしたティーツリーや春に咲くロットネストアイランドデイジーを代表とするワイルドフラワーが群生。島名の由来となっている有袋類のクオッカも、この島にしか生息していない。人懐こい彼らは、観光客のいるところにふいに現れて、エサをねだってはまたどこかに消えていくこの島のマスコットだ。

